

離れた場所でも牛の行動を確認可能

■ 飼養形態

導入前 導入後	労働力 (雇用人数)	飼養頭数		飼養形態
		経産牛	育成牛	
平成 30年	3名(1名)	120頭	80頭	TS
令和 3年	3名(1名)	120頭	80頭	FS



■ 農場内で利用している機器

- 分娩カメラ

■ 導入した目的と効果が上がった点

《目的》こまめに行っていた乾乳舎への巡回をカメラ監視により効率化するため

《効果》夜間の乾乳・分娩舎へ出向く回数低減。分娩時の事故頭数の減少（実感として）

■ 導入した機械の台数、価格など

導入台数：1台	導入年：令和元年	導入価格：50万円
保守点検・修理費：なし		

■ 労働負担軽減の程度、利用方法

	導入前	導入後
利用状況	分娩予定日の牛がいる場合、逐次確認（目視）	分娩予定日の牛がいる場合、逐次確認（スマートフォン利用）
利用の用途		お産（予定日）の近い牛の分娩事故低減
労働の変化 (乾乳・分娩舎訪問回数) (労働人数)	4～5回/日	2～3回/日
	1名	1名
時間の使い方の変化	スマートフォンで確認できるので、夜間や悪天候時は利便性を感じている。	

■ 今までに経験した機器トラブルの内容と対処方法

- ・落雷による電波送受信部（自宅設置）の損傷 → 部品交換 25万円（業者対応）

■ 今後、導入を検討する方々に向けたアドバイスなど

- ・乾乳舎（D型）内の妻面上部に設置したため、併設したパドックに牛が出ている場合死角になってしまう。したがって、カメラ設置場所や設置台数をじっくり検討した上で設置すべきである。
- ・カメラにより、カメラの角度調整、ズームの可否や集音機能、暗視機能の有無があるため、必要な機能を確認した上での購入が必要である。
- ・自宅のモニター等で確認できるシステムがあると良い（スマホ画面だけでは不十分）。

- ・落雷による部品の修理は、JAの建物更生共済などで補償される（自身は未加入であった）。

■ 機器の使用状況



写真1 乾乳・分娩舎に設置したネットワーク監視カメラ



写真2 リアルタイムにスマホで確認可能
(インターネット環境が必要)